

第二次大戦の始まりと日本



* 武永家文書926「太平洋時局地図 キング附録 380万分の1」のうち、「南洋諸島明細地図」（第18巻第1号附録，昭和16年）

解説

「富国強兵」「殖産興業」を掲げた明治新国家。急速な近代化の達成，日清・日露の対外戦争の経験が，国家の膨張をもたらし，近代日本は軍国主義への歩みを食い止める機会を失ってしまいます。

1939（昭和14）年に第二次世界大戦が始まりました。1940年の日独伊三国同盟，翌年の日ソ中立条約締結を経て，日本もその渦中に足を踏み入れることになります。

開戦当初のドイツによるヨーロッパ制覇は，欧州諸国のアジア植民地での支配権力の空白をうみだしました。一方で，1931（昭和6）年の満州事変以降，中国との対立は泥沼化し，日本は「拓殖」という名目での南方進出を企てます。そして，「大東亜共栄圏」のスローガンの下，アジアの団結と欧米支配からの解放を旗印に掲げました。こうした日本の動向は，アメリカとの全面戦争を不可避なものとしてしまいました。

1939年，東京で開催された「長官（道府県知事）会議」にあたり作成された資料にある「国民精神総動員」「国民貯蓄奨励」「軍事援助」「下請工業統制」などの文字には，戦時体制構築に向けた時代の雰囲気がにじみでています。



* 南洋諸島の案内絵葉書（時岡家文書98）